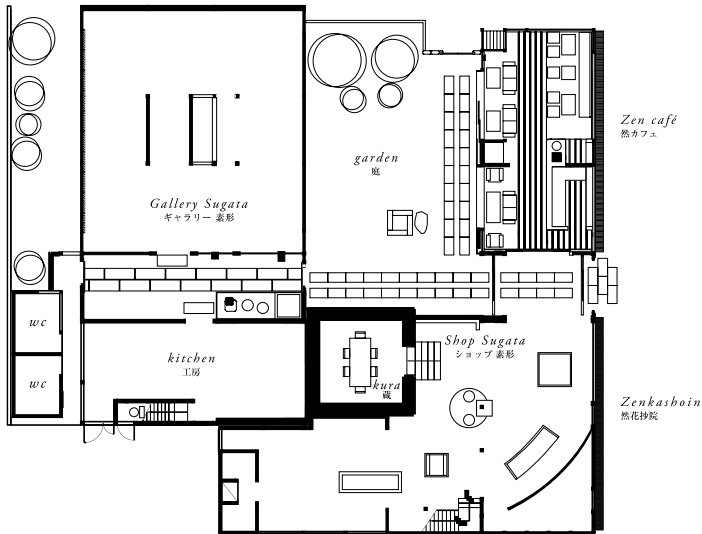


「然花抄院」のブランディング

荒木志華乃





デイスプレイに至るまで、本店にまつわる全要素が「一本の柱」に「想い」のもとに束ねられ、確たるひとつの世界を構成するまでになった。

このプロジェクト全体に関わることで、ブランディングとはまさに作り手の「想い」であり、それをおし進める「持続力」なのだ、改めて気づかされた思いがしている。

京都室町御菓子司

Z E N K A S H O I N

然花抄院



花ある心で人々をもてなす場、「然花抄院」。このネーミングは「想い」を柱に、京都室町の地に菓子司本店をオープンさせたのは、昨夏のことであった。

広い間口をもつこの町家との出会いから、当プロジェクトはスタートする。改装にあたり、元禄時代から維持されてきた風情を損なうことなく本店として甦らせることに腐心。地域のさまざまな規制の中から新しいものを産み出すのは、むしろ楽しみでもあった。

「然」のマーク入りの暖簾をくぐると、左手に物販部、右手には喫茶部。奥には中庭を経てギャラリーを配置。残すべきものは残すなど、内装の細かな点にまで拘りをもって臨んだ。

地域との融和に始まり、店舗の空間構成から商材となる個々の商品開発・パッケージそして



入口暖簾

ブランドマークは「然」という文字を単純化したもの。「無」とも読める。また、横一文字「一」は竈、「𠩺」は竈に火が点った図ともいえる。



エントランス

暖簾をくぐると土間のたまり。天井の照明と土間の円石が対比を成す。





物販部



上 なぐり彫りの手法を施した
円形のディスプレイ台。

左 元々の柱を活かしたディスプレイ。

右 年代を重ねた金庫を壁に組み入れる。



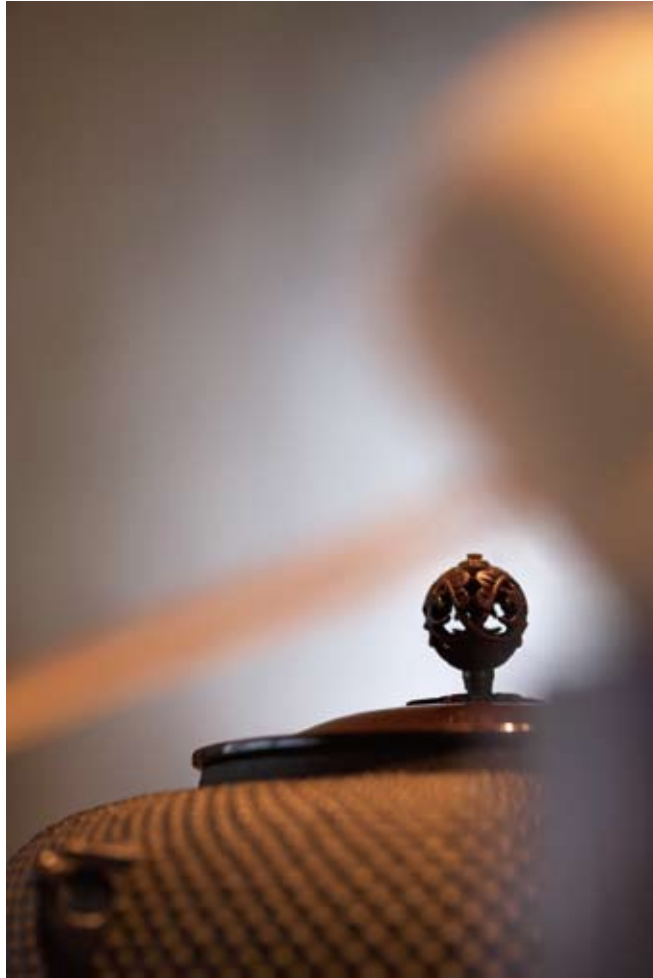
蔵の横に設えた「SHOP SUGATA」
長崎県・波佐見の焼物等、然花抄院好みで取り揃える。



蔵外観



蔵内部
パッケージにも使用した墨絵を壁に配した。





- 上 中庭を臨む茶寮「然カフェ」。
- 左 厨房よりできたての菓子を提供する。
- 右 水の滴りの音を奏でる、オリジナル装置。
- 下 茶寮内壁画。





- 上左 エントランスよりギャラリー。
上右 厨房入口。
下 ギャラリー前廊下。
土間には市電の敷石。猿戸を新たに設置。
「へっつい」も町屋の風情そのままに残した。



中庭から茶寮方向を見る。160坪の敷地の空間に、この中庭が広がりを与える。



Gallery SUGATA

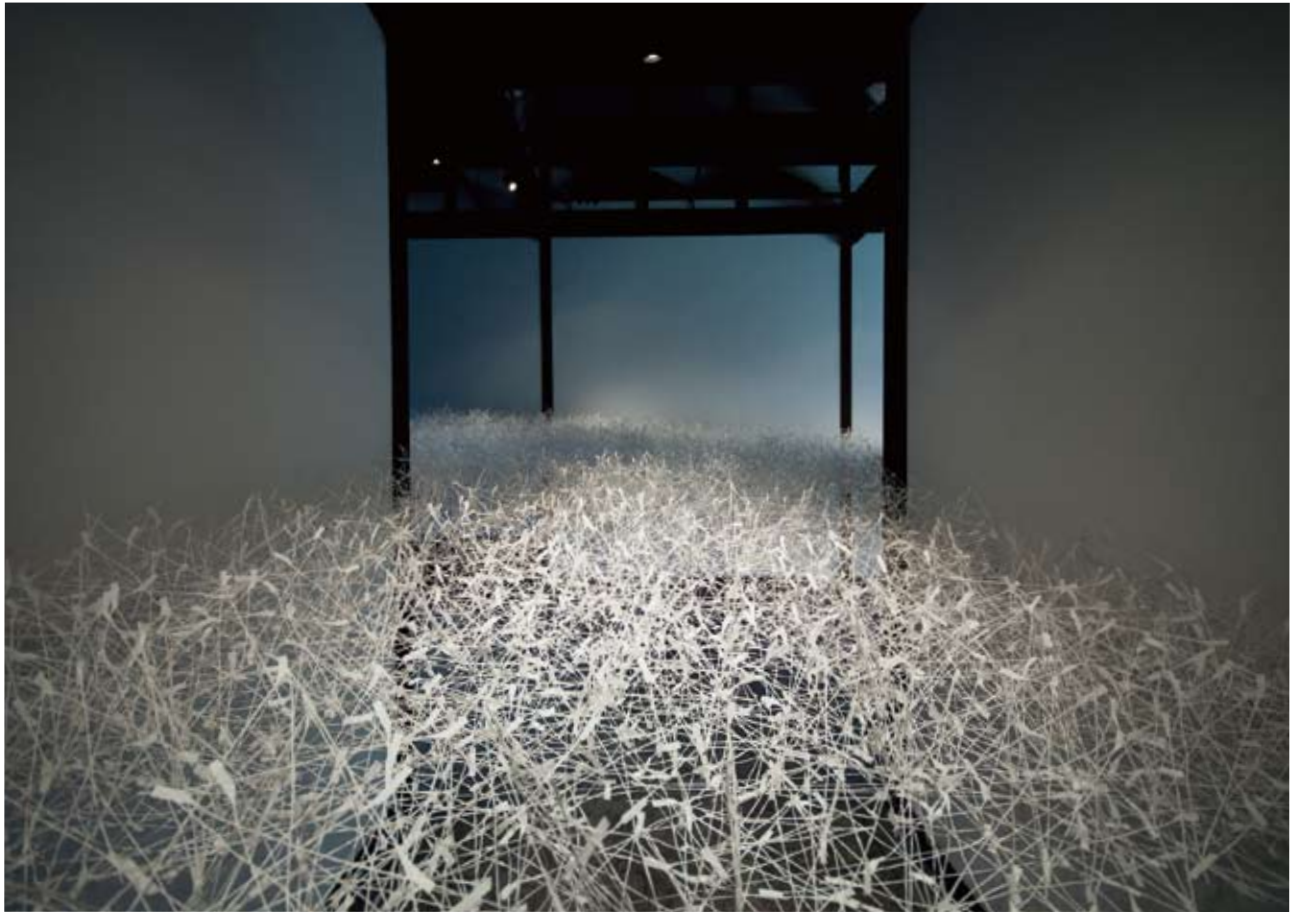
奥の棟をギャラリーとして設営する。

入口より内部を見る。

裏庭、中庭より天然光が差し込む。

従来のギャラリーではあまり類を見ない設え。

展示する作品により、ギャラリーの表情は趣きを異にする。



石田智子「に生其心」展
空間全体を紙こ撚りで覆い尽くす。



「然」かすてら

紙の素材感を重要視する。

この紙容器にて、そのまま菓子の生地を焼成する。



花伝書の和書よりデザインを起こした。
 魅せるだけでなく、その花の心を詠む。
 何も書かれていない伝書の罫だけを残すことで「心に浮かぶ花を白紙に生ける」。



街灯サイン
室町通りに灯る。